

ユネスコ

2022.10
vol. 1175



勉強を続けて中学校進学を目指したいと語るセラ君。自宅の前で

CONTENTS

- 1 特集: Peace for Tomorrow
 広げよう平和の心
 ～ユネスコ協会・クラブ 平和への取り組み～
活動報告
- 4 ●三菱アジア子ども絵日記フェスタ
- 5 ●ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金 支援続報
- 7 ●一杯のスプーン from ネパール
- 8 ●世界寺子屋運動
- 9 ●高校生 カンボジア・オンラインスタディツアー
- 10 ●新規加入会員のご紹介
- お知らせ
- 11 ●総会・理事会・評議員会報告
 ●日本ユネスコ国内委員会関連

働きながら寺子屋で学ぶ14歳

カンボジアにあるポペル寺子屋の小学校クラス*で学ぶレン・セラ君は14歳。母と弟の3人で暮らしています。母親はキャッサバ農場で働いていますが、病気がちで、兄弟二人が通学するための資金を工面できないため、セラ君は学校をやめて母と一緒に農場で働くことにしました。

小学校クラスのことは学校の先生から聞きました。もともと勉強を続けたかったことに加え、農場の仕事後に通えること、また、教科書や文具などの支援を受けられるため、寺子屋で学ぼうと決めました。

セラ君の朝は早く、5時半に起きて前日学んだ内容を復習した後、家畜の世話や洗濯をします。7時には家を出て、牛をえさ場まで移動させてから農場へ向かいます。

勉強についていけないし、頑張れば中学校進学の支援も受けられるので、小学校クラスはとても楽しいとか。

「将来は先生になりたいです。その夢を叶えるために、これからも一生懸命勉強します。」(※小学生クラスについて詳しくはP8で)

きょういくで、あしたへいく。

～ユネスコ協会・クラブ 平和への取り組み～

沖縄がつなぐ平和の心

沖縄県ユネスコ協会 添石幸伸会長インタビュー

第二次世界大戦末期、日米両国の兵士だけでなく多くの民間人が犠牲となった沖縄で、60年以上も活動が続けてきた沖縄県ユネスコ協会。新会長となった添石幸伸氏に、かつてないほど世界の平和が脅かされているいま、ユネスコ活動としてできること、そして平和への思いを伺いました。(ライター/永山多恵子)

戦争は過去のものではない

沖縄は先の大戦で地上戦となり、とても悲惨な体験をしました。私たち40～60代は、身内のお年寄りや語り部の方から辛い体験談を聞いて育ったギリギリの世代。だから、戦争を記憶する人たちが少なくなっているいま、あのような戦争を二度と起こしてはいけないと、私たちが次の世代に伝えなければならない。また、こんな近代国家になっても、ウクライナからは毎日のように酷いニュースが飛び込んでくるし、国境に近く、多くの基地を抱える沖縄でも、いつなんどき同じようなことが起こるかもしれません。戦争は過去のものではない、というのが私たちの根っこにあります。といっても、これは沖縄の人だけが考えることではありません。全国の仲間には、ともに平和を考える仲間だからこそ、沖縄で起きている現実を目に向け、沖縄のことを自分ごととして考えてほしいです。

平和とは何か？

ユネスコ活動で伝えたいこと

ただ、戦争について伝えることは大切ですが、平和の反対にあるものは戦争だけではありません。平和を維持することは、UNESCO憲章にあるように、どうやって「心の中に平和の砦を築く」ということ。そのためには、まず自分自身を愛し、他者との違いを認めあうこと。広い視野で見れば、それが健全な国際社会をつくるし、身近な文化や自然を大切にすることも平和につながっていく。そういったことを子どもたちに伝えるのがユネスコ活動の役割だと思っています。

沖縄県ユ協が県内の高校生を対象に2007年から実施している平和学習会でも、いろいろな角度から平和について考えてもらっています。また、ユネスコ協会SDGsパスポート※を、学校現場だけでなく地元企業や地域住民にも広げ、大人も子どもも一緒になってボランティアで助け合おうという取り組みを今年から始めました。UNESCOの理念とSDGsをつなげながら、平和への思いを広められたら…。いつの日か、沖縄県民全員がこのパスポートを持つようになるのが私たちの夢です。

若い世代に託す思い

沖縄の若い人たちは、平和に対する意識がものすごく高いと思います。ただ、ややもすると基地問題だけがクローズアップされますが、基地に対してはいろいろな考え方があります。若い世代には、平和を維持するためには何が大切な、一歩下がったところで客観的に考えてほしい。そして、いまの世界情勢をしっかりと理解する中で、沖縄の果たす役割を学び、自分で考える力を持つ

てほしいです。と同時に、沖縄には琉球王朝時代から世界とつながってきた豊かな文化がある。そういうところも子どもたちに伝えていきたいです。

命をつないでいく。それが「命どう宝」

今年のお盆に、親戚の長老の方が孫たちを集めて話をしました。家系図を辿って見せて「私たちがここに生きているのは、この家系図に載っているご先祖の人たちが生き抜いてきたからだ。この中の誰か一人でも欠けていたら、いまの自分たちはいない」と。沖縄には「命(ぬち)どう宝=命こそが宝だ」という言葉がありますが、命をつないでいくことの大切さ、何がなんでも生きていくんだ、と伝えていくことが大事だと思います。

世界が不穏な空気に包まれているこの時代、我々ユネスコ活動に携わる者にできることは草の根の活動しかないわけです。大きな政治の力を利用するのではなく、UNESCO憲章前文の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから…」という一文をしっかりと胸に抱いて、平和について一緒に考えていくしかできない。でも、それはとても偉大なことだと思っています。



※ユネスコ協会
SDGsパスポート
各地ユネスコ協会・クラブが主催・主体となり、子どもたちのボランティアを推進する活動。一定時間以上ボランティアに従事すると活動認定証が発行される。

SDGsパスポートに関する情報とともに、沖縄県ユ協や日本ユネスコ協会連盟の情報も盛り込んだニュースレター「オキユニ通信」を2022年8月から発行

profile

そえいし・ゆきのぶ

1969年、沖縄県那覇市生まれ。横浜国立大学大学院修士課程修了。那覇市教育委員会委員長などを経て2019年から沖縄県ユネスコ協会副会長、2021年に会長。税理士法人 添石綜合会計事務所代表税理士。ほかに那覇北ロータリークラブ会長などを兼任し、地域活性化のために幅広く活動している。



作文は 平和へのアプローチ

須賀川地方ユネスコ協会「ユネスコ世界平和作文コンクール」

福島県の須賀川地方ユネスコ協会では、地区内の小・中学生を対象に1985年から「ユネスコ世界平和作文コンクール」を実施しています。

子どもたちは作文の中でこの世界をどう捉え、平和をどのように思い描いているのでしょうか。須賀川地方ユネスコ協会のアンケートをもとに紹介します。(ライター/永山多恵子)

当たり前になっていることが 平和

作文に目を通すと、時代とともに平和へのアプローチ内容に変化があり、多くの子どもたちが生きづらい社会にいることを感じます。だからこそ、さまざまなことに疑問を持ち、解決の糸口を探っているのでしょう。将来をしっかり見据え、自分の意見や思いを自分の言葉で表現する子どもたちには、しなやかでたくましく生きようとする力を感じます。

「平和作文コンクール」で小・中学生から作文を募る一方で、「平和の鐘を鳴らそう」の活動では中学生から参加後に感想をいただいています。これらは平和について考えるひとつのきっかけではありますが、多くの子どもたちが、普段、当たり前になっていることが平和であると認識しているようです。また、多様性を認め、いろいろな国の文化や生き方を知り、理解しようとしているのがわかります。

世界とともに生きるために

積極的平和という言葉がありますが、子どもたちは、まさにその言葉を体現しようとしているようです。共生・協働・共助など、ともに生きることのできる環境、公平で平等な関係、そして、多様な生き方を認め合う社会の構築に心を寄せ、自ら考え行動しなければ、という思いを作文から感じます。複雑な社会を生きていく子どもたちには、世界とともに生きることが重要だと知り、心の中に平和の形を構築できる大人になってほしい。そのためにも、この事業を続けていかなければと思っています。

「届いて行け、平和」
須賀川市立第二中学校2年当時 今野結奈さん

様々なことが便利になった現代社会。スマートフォンやタブレットが一人一台あたり前になって、世界に目がいく機会が減ったと思う。しかし助け合いは、いくら社会が進化しても消えるわけではない。言語が通じなくても、文化が違っても同じ地球で生きているのだから助け合うことが必要だと思う。誰かのおかたが誰かを救うかもしれないなら、平和の始まりなのではないだろうか。

家に帰れば、温かいお風呂があつて、食事があつて、ゆつくり寝られる布団がある。学校へ行けば、学べる環境があつて、仲間だっている。そんな「日常」が世界の全員に届くように。私からの支援がつながって、みんなの支援が輪になって、誰かの笑顔と力になって。そんな世界が平和なのではないだろうか。

きっと、あなたの優しさや私の思いやりが、世界の誰かを救う日があることを信じて、私から、始めていきたいと思った。小さなことでも、目立たなくても、いつか咲く誰かの笑顔のために、行動したいと思う。思いの輪よ、未来の平和を願い祈る全世界に届いて行け。

2021年度の作文コンクールで須賀川市教育委員会教育長賞を受賞した作文から一部抜粋



初めは数百点だった応募作文は年々増え、37回目となった2021年度には2036点が寄せられた



2019年度の表彰式で。現在はコロナ禍により対面での表彰式は行っていない

「平和の鐘を鳴らそう！」運動

「平和の鐘を鳴らそう」運動は、平和への祈りと願いを込めて、地域のお寺や教会の鐘(かね・ベル)を鳴らそうと呼びかけるものです。2000年にUNESCOが提唱し国連が定めた「平和の文化国際年」のキャンペーン事業として、日本ユネスコ協会連盟が全国のユネスコ協会・クラブに取り組みを呼びかけました。この運動は、改めて世代を超えて平和について考えることを目的としています。2000年以前から取り組んでいる協会・クラブも含め、いまなお継続的に取り組む協会・クラブが多く、長年、地域に根付いた活動になっています。(広報課)



各務原ユネスコ協会(岐阜県)

各務原空襲から77年目の祈り

各務原ユネスコ協会は、2007年から毎年、市仏教会の協力のもと「平和の鐘を鳴らそう」の取り組みを行っています。各務原市は陸軍各務ヶ原飛行場や軍需施設が集中していたことから、太平洋戦争中の空襲で大きな被害を受けた地域です。

各務原空襲から77年となった今年6月22日、市内31の寺院が空襲のあった時間に合わせて一斉に鐘をつき、犠牲者の冥福を祈りました。当日は、B29の空襲を経験した89歳の男性も参加。当時の悲惨な状況を振り返るとともに、ウクライナの人びとにも思いを馳せ、改めて戦争のない平和な世界を願いました。



長浜ユネスコ協会(滋賀県)

ウクライナの平和を願って

長浜ユネスコ協会は、2000年から欠かすことなく毎年8月15日に「平和の鐘を鳴らそう」運動に取り組んでいます。今年は、ロシアによるウクライナ侵攻の後、ウクライナの一日も早い平和の実現を願い、3月23日に市内の長浜別院大通寺で実施しました。会員や市民ら約50名が参加し、ウクライナの犠牲者への黙祷を捧げ、「私の平和宣言※」を唱和。参加者一人ひとりが平和への祈りを込めて鐘を鳴らしました。



※「わたしの平和宣言」: 2000年「平和の文化国際年」を記念してノーベル平和賞受賞者らが起草した「マニフェスト2000」を、子どもたちにもわかるように日ユ協連が和訳したもの。『すべての人の命を大切にします』『どんな暴力も許しません』『かけがえのない地球環境を守ります』など6項目の誓い。



豊橋ユネスコ協会(愛知県)

行政・市民・地元企業の協力で「平和・共生の鐘」を設置

豊橋市は、旧陸軍第18連隊、旧陸軍第15師団、豊橋海軍航空隊基地など、明治時代から太平洋戦争が終わるまで多くの軍事拠点が置かれていた町です。

戦後、近代都市となり、2006年には「平和・共生・交流」都市宣言を行いました。豊橋ユネスコ協会は、設立15周年の今年、地元企業や市民の募

金、クラウドファンディングで資金を集め、市の協力のもと、市内の公園に、平和・共生を目指す新しいシンボル「平和・共生の鐘」を設置しました。7月3日の除幕式には約80名の市民らが参加。平和な社会への願いを市民の間で共有する機会になるよう、鐘を鳴らす行事を続けていきます。



～他にも50を超える協会・クラブで取り組んでいます～

札幌ユネスコ協会
(北海道) 7月16日



まちだ・さがみユネスコ協会
(東京都) 7月16日



広島ユネスコ協会
(広島県) 8月15日



四国中央ユネスコ協会
(愛媛県) 8月15日



鹿児島ユネスコ協会
(鹿児島県) 8月7日





2021・2022

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」は、日本固有の文化である絵日記をアジアの子どもたちに描いてもらうことで、お互いの生活や文化への理解をより深めてもらうことを目的に、2年に1度実施される国際文化交流事業です。

第15回目となった2022年は、22の国と地域から2万7223作品(絵日記5枚1組で1作品)の応募があり、各国の代表作品の国際審査を経て、各国・地域のグランプリ受賞作品や主催者賞(三菱広報委員会賞、日本ユネスコ協会連盟賞など)が選出されました。今回は、その中から色鮮やかに描かれた4枚の絵日記を紹介します。(国内事業課)

(共催:三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟)



作品選考のようす

インドネシア共和国

ブトゥ バグス サストラ ヴェダンタ ウィヤサさん
(男性・11歳)



ぼくたちの最初のバロン・バクン(災いを追い払う伝統的なダンスや、それに用いる仮面)は、ココナツの殻を半分にし、クレヨンで彩ってバロン・バクンの頭に似せたものです。ぼくの妹が踊ってくれましたが、まだ5歳なので重くてうまく踊れません。最後は、座って踊っていました。

カザフスタン共和国

サモイロヴァ ダリヤ オレグヴォナさん
(女性・11歳)



私の人生で一番幸せな瞬間は、弟が生まれたときです。眠っている弟の小さな手足を初めて見たとき、人形かと思いました。

モンゴル国

アヌ ウジン エンクトゥルさん
(女性・9歳)



暑い晴れた日、私は牛を川に連れて行き、水をやりました。ヒバリが空を飛び、魚が川ではね、水鳥が川の水面に浮かんでいました。

タイ王国

ジェーサダー トーンバンハーさん
(男性・12歳)



毎晩ベッドに入る前に、ぼくはすべての生きもの、プレート(浮遊霊)もサンパウェシー(悪霊)も含めた死んでしまったものたち、守り神とともに、功德を積み善行を分かち合うよう祈ります。

ユネスコ協会・ ウクライナ緊急募金

支援 続報

ウクライナ避難民のための宿泊・食糧・生活物資支援を行う標記緊急募金では、2022年3月に支援を開始したウクライナのチェルノフツィ市およびルーマニアのスチャバ市に加え、5月からはスロバキアのNGO、ピープルインニード・スロバキア(PIN SK)*を通じて、スロバキアと国境を接するウクライナ西部のザカルパッチャ州での支援を行いました。

ザカルパッチャ州は、5月上旬には少なくとも推定40万人の避難民が流入した地域。PIN SKでは、学校などの公的施設を拠点に、同州内15ヵ所に上る大規模な避難所運営を行っています。フード・バスケット(食品セット)、飲料水、衛生用品、子どもケア用品、医薬品をはじめとする生活物資はもとより、大量のベッドやマットレス、寝具、ストーブ、洗濯機などの生活に必要な設備を避難所に設置し、たくさんの人びとの滞在を支援しました。(広報課、海外事業課)

※ピープルインニード・スロバキア…1999年、コソボ紛争の被害者支援のために設立されたNGO。これまでに世界29ヵ国で人道支援を行った実績がある。



▲子どもたちも支援物資を運ぶお手伝い photo: People in Need Slovakia

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金

- ・募金受付期間：2022年3月4日～5月末日
※募金の受付は終了しています。
- ・募金総額：8089万6681円(2022年8月末日)
- ・支援内容：ウクライナ避難民のための宿泊・食糧・生活物資などの支援
- ・現地支援団体：ルーマニアユネスコ協会センタークラブ連盟、シグヌス科学ユネスコ協会
【ルーマニア・スチャバ市で活動】
チェルノフツィユネスコ文化センター
【ウクライナ・チェルノフツィ市で活動】
ピープルインニード・スロバキア(PIN SK)
【ウクライナ・ザカルパッチャ州で活動】



▲多くの人びとが身を寄せる避難所

photo: People in Need Slovakia



photo: Peter Voloscuk

▲▼支援物資を運搬し、保管する

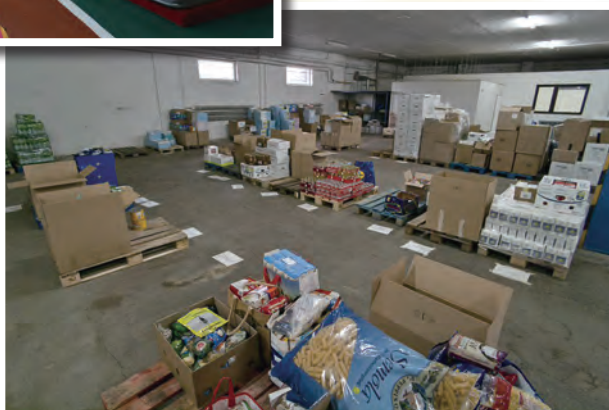


photo: Peter Voloscuk





photo: People in Need Slovakia

▲▼避難所での生活に欠かせない洗濯機も
複数台設置してある



photo: People in Need Slovakia



▲大量の缶詰め食品を搬入するPIN SK スタッフ
photo: People in Need Slovakia

Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。

FE 富士電機

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

一杯のスプーン

from ネパール

女性への意識啓発と地域医療を支援

て、無償の巡回診察・母子保健・一般健診など、コミュニティのニーズに合わせた多様なプログラムを行っています。2021～22年にかけては、7種類のプログラムに計3964人が参加しました。その一部を紹介します。(海外事業課) ※ UNICEFホームページより



無償の眼科検診

各寺子屋が地域の病院と連携して、無償眼科検診を行っています。診断結果により、薬や眼鏡、必要な人には白内障手術も提供されます。どの寺子屋も、検診当日には多くの人が訪れ、目の健康を守る貴重な機会になっています。

地域のニーズに加えて病院側も協力しやすく、最も規模の大きなプログラムとなりました。過去一年で受診した人は1705人(女性908人)にのぼり、協力した医師・看護師は45人でした。

◀眼科検診当日は、希望者が寺子屋の敷地の外まで長蛇の列をつくる

母子保健に関する研修会

主に妊婦を対象に、母子保健や栄養に関する意識啓発のプログラムを実施しています。妊娠中の過ごし方や栄養のとり方、母乳の利点、新生児の世話や予防接種、子どもの栄養失調などについて、保健施設の看護師などが寺子屋で話し、母親たちの質問に答えます。

栄養豊富な卵を受け取る母子保健参加者の女性▶



生理用品づくり

対象地域では、ほとんどの女性が生理用品を買うお金がありません。しかし適切なケアをしなければ、衛生状態が保てず病気のリスクにつながります。そこで寺子屋に講師を招き、再利用可能なナプキンを手づくりするワークショップを行っています。経済的な上、環境や身体にも優しいと好評です。

◀地域で入手可能な材料を使って生理用品をつくる



アンジラ・ダーワルさん
マドゥバニ寺子屋(24歳)

私は8人家族で、裕福でない環境で育ち、学校にも行けませんでした。文字があまり読めないのので、寺子屋で母子保健の研修会に参加していなかったら、衛生や栄養、予防接種などについて知らないままでした。このような勉強の機会をいただき、支援してくださる日本の皆さんに感謝しています。

一杯のスプーンとは 1974年から40年以上にわたり、飢えや病気に苦しむ人びとへの医療・保健・食糧の支援を行っています。現在は世界寺子屋運動の実施地域で、保健・衛生教育の実施や食糧・医療品の支援を行っています。

一杯のスプーン運動は、1974年に評論家・犬養道子さんの呼びかけで始まりました。私たち一人ひとりがスプーン一杯分のわずかな食糧を節約し、寄付をすることで途上国の飢えや病気に苦しむ子どもたちを救おうというもの。48年を経て絶やすことなく支援を続けています。



世界寺子屋運動 カンボジア

子どもたちの未来を拓く 小学校相当クラスの教育プログラム

経済的な理由などで小学校に通えなくなった子どもたちに、教育の機会をつくっているのが寺子屋の小学校相当クラスです。今号ではカンボジアでの支援内容を紹介します。(海外事業課)

●プログラム概要

小学校クラスは、小学校を中途退学してしまった12～16歳の子どもたちを対象に、カンボジア教育省との連携のもと、2012年から主に寺子屋で実施しているプログラムです。とくに貧しい家庭の子どもを優先して受け入れており、1クラス15～25人の生徒が2年間にわたり、読み書き算数のほか、健康や生活技能といった日々の生活に役立つ知識や技術を身に付けます。

修了試験に合格すると小学校卒業と同程度の学力が認められ、公教育の中学校に入学が認められます。

●授業例

授業は政府が監修した教科書に沿って進められます。ある日の算数の授業では、2年生の2ヵ月目のカリキュラムとして、四辺形について学びました。まず、四辺形の種類について学びましたが、生徒たちは当初、平行四辺形、正方形、ひし形、台形が四辺形であることを理解していませんでした。授業で先生から説明を受け、教科書に載っている練習問題を解くことで、最後にはすべての種類の四辺形を認識することができました。

●カリキュラム概要

1年次			
クメール語(国語)・算数 (初級～中級レベル)	健康教育	生活技能 (ライフスキル)	
1. 基本の読み書き計算(母音、子音から始まり、長さや重さ、図形、2桁の掛け算、割り算まで) 2. 身近なトピックについて学びながら、関連する単語の読み書きを学ぶ トピック例： ・家族や社会(王政、人権、伝統、地理、仏教のならわしやふるまい) ・健康・安全(病気の種類、ワクチン、栄養、衛生、交通ルール、災害など) ・教育や労働(家畜や資源の管理)	さまざまな病気や体の症状について、原因、症状、治療法、予防について学ぶ 主なトピック： ・目、口、鼻など体の各部分の健康 ・デング熱、チフス、結核、食中毒など	生活に関連する技能を実践的に学ぶ 主なトピック： ・折り紙、はさみや定規の使い方、粘土 ・絵画(野菜や果物) ・伝統舞踊、古謡	

2年次			
クメール語(国語)	算数	生活技能 (ライフスキル)	健康教育
教科書に沿って毎回異なる文章を読み、テーマを理解し考えるとともに、単語を覚える トピック例： ・友人、知性、宗教と道徳、仕事 ・伝統や文化、伝統的な音楽や衣装 ・社会問題(貧富の差、児童労働、子どもの権利、出稼ぎなど) ・宇宙、地理、環境、災害、農業	・7桁の足し算・引き算 ・図形の面積と角度 ・分数の計算 ・小数点以下の計算 ・速度と時間の計算	・農業・菜園 ・裁縫 ・料理 ・収支の計算	・栄養について ・薬とその作用 ・心と体の成長 ・性感染症について

※1・2年次ともに3ヵ月終了時と年次終了時にテストあり。



ポペル寺子屋での2年次の授業風景

●中学進学の見きりと手続き

小学校クラスの試験に合格すると、結果は郡教育局に送られ、政府の正式な認証を受けます。寺子屋運営委員会の担当者は、認証済み合格者リストを中学校の校長に手渡し、入学に向けた手続きを行います。

中学進学者には、経済的な理由で勉学を諦めることがないように、制服や文具を支給。また、授業開始後も、寺子屋運営委員会は定期的に中学校長を訪問し、生徒たちの勉学状況を確認するとともに、相談などにも応じます。

ネパールでも小学校相当クラスを実施

多くの国で小学校への就学率が改善する中、経済的理由で中途退学してしまう子どもは後を絶ちません。それを受け、ネパールの寺子屋でも3年制の小学校クラスがあります。現在合わせて46クラス789人が、ネパール語、算数、英語、理科、社会の5科目を中心に学んでいます。卒業後は成績などによって小学校編入や中学校進学が可能で、中途退学を余儀なくされた子どもや若者にとって大切な学びの場となっています。



給食を食べて笑顔を見せるロハル寺子屋の生徒たち

高校生カンボジア・オンラインスタディツアー開催！

8月6日(土)・7日(日)の2日間、実行委員※進行のもと、8校の高校生を対象として標記ツアーがZoomで開催されました。このツアーは、現地に暮らす人びとや参加校間の交流を通して、教育・国際協力の視点からカンボジアが抱える諸課題について考えるとともに、「自分たちにできること」を実際のアクションへと移し、学内外へ発信することを目的としています。(国内事業課)

※実行委員…第6回高校生カンボジアスタディツアー(2019年開催)の参加者らで構成
(共催：公益財団法人かめのり財団)

1日目 カンボジアの人びとと交流し現場を訪問

寺子屋の授業見学や学習者自宅訪問、ブッタ所長や元学習者らとの交流など、国際協力の現場をのぞきながらも、文化・環境の違いを感じることができました。中でも、元寺子屋学習者・教員との「絵を交えた交流」では、「カンボジアの人びとは家族愛が強く、いつも家族のことをいちばんに考えているのだと実感した」「日本の学校から『宝物は友だち』と発表があったが、私も友だちが大好き。日本の皆さんと同じ思いでとても嬉しい」といった感想が両国から飛び交い、同世代で互いの価値観について学び合う貴重な機会となりました。



▼家庭訪問では寺子屋学習者の日常のようすを知ることができた。右は豚の餌やり

▶現地の寺子屋を中継でつなぎ交流した



▶寺子屋の元学習者が自分の宝物について教えてくれた



▲寺子屋の人びとに質問をする参加者ら

2日目 1日目を振り返って教育支援を『自分ごと』に

「1日目の学び・今後のアクションプラン」について各校から発表があり、その後、自分たちの理想とする寺子屋について、2チームに分かれて話し合いが行われました。発表では、「当たり前を当たり前だと思わず、自分の環境に感謝しなければならない」という意見が何度もあげられるとともに、事後アクションについて、発表会・クイズの実施、募金箱設置、絵本作りやSNS活用など、さまざまなアイデアが共有されました。

また、チーム別の活動では、それぞれ「学習の質」「経済的な支援」「コミュニティとの関わり」「設備」といったカテゴリーを考え、自分たちが出した意見を分類してまとめることで、教育支援を『自分ごと』とし、大切にすべき視点を整理することができました。

今後は、参加者が上限3万円の応援金を活用しながら、それぞれの学校で事後アクションを展開します。各校での活動のようすは、2023年3月頃、日ユ協連YouTubeチャンネルで配信予定です。

※本ツアーのライブ配信映像のダイジェスト版およびフルバージョンは、日ユ協連YouTubeチャンネルよりご覧いただけます。



▲8校の高校生とカンボジアをオンラインでつないだ

未来が
楽しみに
なってきた!!

鈴木 光

これがアンテナ…？
もっとつながる未来が
実現しそうですね！

このフィルム、肉眼では分かりませんが、超微細な5Gアンテナが印刷されているんですって。無色透明なフィルムだから、スマホやパソコン、家電やクルマなど、いろんなシーンや用途で活用できそう。
この見えないアンテナがあたりまえになったら、
私のメガネも5Gにつながるかも…？

未来のあたりまえをつくる。

DNP

大日本印刷株式会社

新規加入会員のご紹介

構成団体会員

八千代ユネスコ協会
(千葉県八千代市)
会長 齋藤 敏夫

本会は、「SDGs」をキーワードに団体や個人の活動を横につなげ、地域の中での連携の場、プラットフォームとします。そして、誰ひとり取り残さない、誰もが安心して暮らせる、未来へと続く、私たちの街・地域・ふるさと、「SDGs 未来都市やちよ」の実現を目指します。

大牟田地方ユネスコ協会
(福岡県大牟田市など)
会長 井形 ヤス子

大牟田市は、公立の小学校、中学校、特別支援学校がすべてユネスコスクールに加盟しており、その支援活動を行います。また、市内にある「明治日本の産業革命遺産」の啓発・保全などに協力を行います。その他、世界寺子屋運動への協力などを通じて、地域における持続可能な社会づくりに向けた活動を進めます。

淡路島ユネスコ協会
(兵庫県淡路市、洲本市、南あわじ市)
理事長 南部 真希也

淡路島の地域課題である伝統芸能や自然文化遺産の継承などについて、課題解決につながる活動を行います。また、この活動を通じて、淡路島の地域住民が国際平和や福祉について理解を深められるような機会を提供します。

賛助団体会員 一般社団法人日本コミュニティ放送協会

information

日本ユネスコ協会連盟からのお知らせ

お知らせ

第78回日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津



標記大会が下記の通り開催されます。今大会では、俳優の宇梶剛士氏の基調講演をはじめ、「オーガニックシティー木更津」をテーマにしたパネルディスカッションなどが計画されています。

日時●2022年11月26日(土)

テーマ●「誰一人取り残さない平和で持続可能な未来を目指して～オーガニックシティー木更津からの発信～」

場所●かずさアカデミアホール(千葉県木更津市)

主催●公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
千葉県ユネスコ連絡協議会

主管●木更津ユネスコ協会

「2021年度 活動レポート」を発行しました

2021年度に国内外で実施した活動をまとめた年次報告書「2021年度活動レポート」を7月に発行し、ご寄付者の皆さまや会員の方々に配布しました。HPからもダウンロードいただけます。ぜひご覧ください。



「2021年度 ユネスコ協会就学支援奨学金レポート」完成

昨年度の事業報告書「ユネスコ協会就学支援奨学金レポート2021」が完成しました。元奨学生たちによる座談会をはじめ、奨

学生の保護者や被災校の先生へのインタビュー、奨学生からのお便りなどを掲載しています。



ユネスコ協会就学支援奨学金の募金受付を2023年3月末で終了します

日本ユネスコ協会連盟は、2011年に東日本大震災子ども支援として「ユネスコ協会就学支援奨学金」事業を創設し、多くの皆さまの募金により、この11年間に東北3県で3555人の児童・生徒に返還不要の奨学金を支援することができました。

本奨学金事業は2023年3月末をもって募金の受付を終了しますことをあらかじめお知らせします。引き続き、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

災害子ども教育支援募金 ご協力をお願い

東日本大震災子ども支援の後継事業として、「災害子ども教育支援」を開始しています。今後起こる災害から子どもたちの未来を守るために、皆さまの温かい募金協力をお願いいたします。振り込み用紙付きチラシもご用意しています。チラシのお申し込みは教育支援課まで。



TBS

世界遺産 THE WORLD HERITAGE

世界遺産

毎週日曜日午後6時よりTBS系列で放送中

10月～12月ラインナップ

10月 2日	北海道・北東北の縄文遺跡群Ⅰ (日本)
10月 9日	北海道・北東北の縄文遺跡群Ⅱ (日本)
10月16日	イシマンガリソ自然公園 (南アフリカ)
10月23日	放送休止
10月30日	ナハニ国立公園 (カナダ)
11月 6日	ウェールズ北西部のスレート景観 (イギリス)
11月13日	古都奈良・東大寺の四季【4K8K特別編】 (日本)
11月20日	企画：古代ロマン世界遺産 (各国)
11月27日	濟州島の火山と溶岩洞窟群 (韓国)
12月 4日	オルチア溪谷 (イタリア)
12月11日	ベストショット2022 (各国)
12月18日	放送休止
12月25日	放送休止

放送予定は変更される事もありますのでご了承ください。

https://www.tbs.co.jp/heritage/

お知らせ

首里城復興ユネスコ募金 追加寄付完了報告

2019年に火災で焼失した首里城の復興を支援する標記募金について、2022年3月31日、沖縄県に351万5357円の追加寄付を行いました。2020年に沖縄県および沖縄美ら島財団に対して行った3896万928円の寄付と合わせて、標記募金総額は合計4247万6285円となりました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

年間領収書の発行と送付のお知らせ

日本ユネスコ協会連盟への募金・寄付金は、確定申告していただくことにより、税法上の優遇措置を受けることができます。

2022年1月1日～12月31日に受領したご寄付の年間領収書は、2023年2月上旬ごろまでにお届けする予定です。紛失などによる領収書の再発行は承ることができませんので、申告時まで大切に保管していただきますようお願いいたします。なお、以下の点にもご注意ください。

◆クレジットカードでのご寄付は、決済日ではなく、カード会社・決済代行会社から当連盟に入金された日が受領日となります。11月以降にクレジットカードで寄付された場合、当連盟への入金が翌年1月以降になることがあります。

◆今回発行分より領収書の名義や送付先住所を変更される方は、2022年11月30日(水)までに書面またはメール、も

しくはお電話でお知らせください。

●問合せ：総務部(大嶋)
E-mail: soumu@unesco.or.jp
TEL: 03-5424-1121

訃報

久保田穰さん

横浜ユネスコ協会会長

2022年3月25日 86歳でご逝去
ご冥福をお祈り申し上げます。

事務局人事(管理職)(7月1日現在)

事務局長：尼子美博

【企画部】企画部副部長兼広報課長：上岡あい

【第2事業部】第2事業部長(兼)：尼子美博

【総務部】総務部長：岩井隆明

総会・理事会・評議員会報告

■第73回定時総会

6月25日(土)、東京・大手町サンスカイルームにて、第73回定時総会を開催した。

また、委任状提出の会員向けにライブ配信を実施した。

決議および報告された事項は、以下のとおり。

【決議事項】

第1号議案 2021年度事業報告書(案)及び計算書類等(案)

⇒ 原案どおり承認可決された。

第2号議案 ACCUの合併に係る定款等の改定(案)

⇒ 原案どおり承認可決された。

【報告事項】

決議事項に引き続き、下記について報告を行った。

- ・2022年度事業計画書及び収支予算書
- ・今後の総会での会員議案提出方法について
- ・ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金の経過報告

■第548回理事会

5月21日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

1. 会員の入会
個人会員1、構成団体会員1
2. 2021年度事業報告書(案)及び2021年度計算書類等(案)
(1)2021年度事業報告書(案)
(2)2021年度計算書類等(案)
3. ACCUとの統合に伴う定款・関連規程の改定(案)およびACCUとの合併契約書(案)
4. 定款第64条委員会からの報告と対応
5. 第73回定時総会の開催(案)
6. 2023年度全国大会の開催(案)
7. 代表理事の他団体役員就任の件

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

・部会等からの報告・提案事項等

- (1)組織部会(5/17)
- (2)財務部会(5/17)
- (3)定款・諸規程改定検討部会(5/10)
- (4)世界寺子屋運動部会(4/15)
- (5)地域代表・青年代表理事会議(5/16)

⇒ 審議の結果、(1)組織部会から報告があった、大学ユネスコクラブの取り扱いについて、部会にて継続検討することとなった。その他は、いずれも原案どおり決議された。

III. 報告事項

1. 担当理事からの報告(「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」「東日本大震災子ども支援」「災害子ども教育支援」/「日本における子どもたちの貧困問題に対する取り組みについて」)
2. 2021年度 事業進捗報告
3. 代表理事の職務執行状況報告(2022年3月12日～2022年5月20日)
4. 後援・共催事業
5. 日本ユネスコ国内委員会関係報告
6. その他

■第549回理事会

6月25日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

1. 第73回定時総会への会員議案提出の取り扱いについて
2. 第74回臨時総会以降の会員議案提出の取り扱いについて
3. 第74回臨時総会および第550回理事会の開催について
4. 日ユ協連事務局長の任命について

⇒ 審議の結果、原案どおり決議された。

II. 報告事項

1. 第548回理事会での質問について
2. その他

■第550回理事会

9月10日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

1. 会員の入会
構成団体会員2、賛助団体会員1
2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併について
3. 個人会員・構成団体会員に対する定款第64条委員会からの報告を受けた対応
4. 第74回臨時総会の開催(案)

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

・部会等からの報告・提案事項等

- (1)組織部会(8/25)
- (2)財務部会(8/22、9/7)
- (3)定款・諸規程改定検討部会(7/25)
- (4)世界寺子屋運動部会(8/5)
- (5)地域代表・青年代表理事会議(8/18)

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

III. 報告事項

1. 担当理事からの報告(「地域協働型包括教育支援事業」「高校生カンボジアオンラインスタディツアー」「災害子ども教育支援」)
2. 2022年度事業進捗報告
3. 代表理事の職務執行状況報告(2022年5月21日～2022年9月9日)
4. 後援・共催事業
5. 日本ユネスコ国内委員会関係報告
6. その他

■第55回評議員会

5月21日(土)に予定していたが、5月21日(土)の理事会後に開催する評議員会と定時総会の内容が重複する等の理由により中止することとした。

日本ユネスコ国内委員会関連

第151回日本ユネスコ国内委員会総会報告

9月8日(木)、文部科学省第一講堂およびオンラインとの併用で開催されました。

最近のUNESCO関係の動きとしては、9月の国連総会期間中にUNESCO主催として初めて行われることになった国連教育変革サミッ

ト(Transforming Education Summit: TES)などについて報告が行われました。また、日本のUNESCO加盟70周年に活動を開始した「次世代ユネスコ国内委員会」から活動報告がありました。当連盟からは、ロシアによるウクライナ侵攻を受け開始した「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」について募金状況や支援内容の報告を行いました。